



■ JSTTの委員会等活動

(1) 企画委員会

9月17日(水) 第2回企画委員会を開催しました。前回の議論を引き継ぎJSTTの役割等についてフリーディスカッションするとともに、事務局提出の会員企業の海外展開アンケート(案)について論議を行いました。また、ISTT機関誌「TRENCHLESS International」への投稿や特集記事の邦文訳をJSTT機関誌「No-Dig Today」への掲載について取組むことを確認しました。

(2) 技術委員会

9月26日(金) 技術委員会を開催しました。第25回非開削技術研究発表会の発表研究論文の審査を行い、16篇の論文発表を決定するとともに、4セッションに分け座長を技術委員の中から選任しました。

(3) 地下探査委員会

9月26日(金) 地下探査委員会を開催しました。前回(16回)委員会資料「地下探査技術適用マニュアル(案)審議事項」の項目に基づき、確認・再審議を行い、一定の整理を図るとともに現在利用されている探査システムを一覧で示すこととしました。

(4) 日台非開削技術協会交流会

9月30日(火) 国立台湾科技大学(台北市)で交流会を行いました。詳細は「海外イベント報告」をご覧ください。

(5) 機関誌「No-Dig Today」編集委員会、 編集小委員会

【編集委員会】

10月8日(水) 編集委員会を開催し、10月1日発行の機関誌「No-Dig Today」89号の内容について確認するとともに11月1日発行の90号の編集内容について審議しました。前回論議した「機関誌「No-Dig Today」のモニターの実施」は事務局提案通り、モニターは当協会の理事・監事の方々の組織にそれぞれ1名計14名を選任いただき、平成27年の1年間お願いすることとしました。また、配付先の見直しでは、(公社)下水道協会編集名簿の賛助会員「設計・測量」分野174社に機関誌「No-Dig Today」を2回贈呈し、非開削技術の普及・展開を行うこととしました。また、非開削工事の主要分野として下水道の事業主体である地方の主要都市にも機関誌「No-Dig Today」の配付を

検討することとしました。

【編集小委員会】

10月8日(水) 編集委員会に先立ち編集小委員会を開催しました。10月1日発行の機関誌「No-Dig Today」89号の内容確認、第90号の編集方針などを確認するとともに機関誌「No-Dig Today」の「モニターの実施(案)」や「配付先の見直し(案)」を審議しました。

(6) INTERNATIONAL NO-DIG マドリッド2014

10月12日(日)～15日(水)にスペイン・マドリッドでISTTの総会・会議・展示会が開催されました。詳細は「海外イベント報告」をご覧ください。

(7) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

11月11日(火) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会を開催しました。本年度のテーマである「長距離施工の基準書」(第2版)について審議を行うとともに、基準書の印刷・配付等について話しあい、来春の配付を目指すこととしました。また、「平成27年度 環境にやさしい(HDD工法)技術講習会」の内容を審議し、開催は東日本地区(H27.6)、東海地区(H28.2)とすることとしました。

(8) 非開削技術研究発表会

11月18日(火) 発明会館地下ホールにて当協会が主催する「非開削技術研究発表会」を約140名の参加をいただき開催しました。発表会には16論文(2編は大学院生)の応募があり、当日の発表では4セッションに分け、座長を技術委員会の委員にお願いし開催いたしました。なお、本年度も継続学習制度のCPD(土木学会)、CPDS(全国施工管理技士会連合会)のポイント付与認定を受けました。

(9) ソーシャルコスト検討委員会

11月27日(木) ソーシャルコスト検討委員会を開催しました。ここでは「地下管渠工事の社会的費用—算定の手引き—(案)」について審議を行い、内容の明確化について論議しました。今後の予定としては新たな原版を作り、平成27年1月末を目途に産学関係者に意見を聞くこととしました。

(10) 編集小委員会

12月1日(月) 編集小委員会を開催しました。第90号の入稿状況を確認するとともに4月1日発行の91号の内容について検討しました。また、(公社)下水道協会

編集名簿の賛助会員「設計・測量」分野174社に機関誌「No-Dig Today」の2回目の贈呈にともない、贈呈各社から「非開削工事設計」の有無や「工法ナビ」の利用等のアンケートを実施することとしました。なお、機関誌「No-Dig Today」が100号を迎えるにあたり、記念特集号のプログラムを議論することを確認しました。

(11) 企画委員会

12月2日(火)第3回の企画委員会を開催しました。「JSTTに期待したいこと」というテーマでフリーディスカッションを行い、海外新技術調査のあり方や非開削技術講演会・研究発表会について意見を交わしました。

前回論議した会員企業の海外展開についてアンケート調査を決定しましたので、会員各社のご協力

をよろしくお願いいたします。なお、ISTT機関誌「TRENCHLESS International」への投稿や特集記事の邦文訳をJSTT機関誌「No-Dig Today」への掲載について平成27年度予算に組み込むことを確認しました。

(12) 工法ナビゲーションシステム運営委員会

12月3日(水)の工法ナビ運営委員会を開催しました。11月末に実施した工法ナビ(推進工法)のリニューアル版の運用開始状況について、提供後1週間ではあるが、利用ユーザや情報提供各社からの不明点の問合せが1件で順調な運用となっているとの報告がありました。また、来年度のホームページのリニューアルについても論議を始めました。



お詫びと訂正「海外技術投稿」

本誌、平成26年10月1日発行、No.89号「海外技術投稿」についての記述に、間違いがありました。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

- 48頁左側最終行 (誤) ができます。また、水素ガスを管に充満させて、漏水箇所から地上へ洩れ出るガスを探査することによって
- (正) ができます。また、水素ガス5%と窒素ガス95%の混合ガスを管に充満させて、漏水箇所から地上へ洩れ出るガスを探査することによって